



加古だより

加古小学校通信
令和4年10月号
No.24 (297号)

令和4年度 加古小学力・学習状況調査結果

校長 吉田 博明

国語

○成果があった点 ●課題がある点

話すこと・聞くこと

必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、自分の考えを伝え合う学習は、国語科のみならず、他教科等においても行っている。その成果として積極的に自分の意見を話す力についてはついてきている。今後は、相手の伝えたいこと、中心を的確に捉える力を養いたい。

○自分が選んだ解決方法について考え、限られた字数の中で書く。

●話し手が伝えたいこと、中心を捉える。

書くこと

意見を述べる文章は、国語科の学習のみならず、他教科等の学習でも積極的に取り入れている。文章全体の構成を考えたり、理由を明確にしながらか自分の考えが伝わるように書いたりすることはできる。しかし、それらを文章の中で使うことが文章の良さになっていることには気づけていない。また、経験や聞いたこと、自分の感じたことなどを、具体的に書くことが難しい。

○自分の考えが明確に伝わるように、文章の構成の仕方を理解し、自分の考えを最初を書くことを捉える。

●「聞いたことや経験したことをもとにしていること」や「最後の段落にがんばりたいことを具体的に書いていること」など、文章の良さを見つける。

読むこと

物語を読み、登場人物の気持ちや相互関係を捉えることはできている。しかし、物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることが難しい。複数の叙述を基に、物語全体から伝わってくることについて考えることが課題である。

○登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉える。

●複数の叙述を基に登場人物の気持ちを捉える。

●人物像や物語の全体像を具体的に想像する。

言語の特徴や使い方に関する事項

話し合いでは、異なる立場からの考えを聞き、互いの立場や考えを尊重しながらも、自分の考えを伝えられるようにすることが課題である。また、授業や日々の家庭学習で漢字練習を行い、間違いやすい熟語については、漢字辞典を使って意味を調べたり、短文作りをしたりする学習を取り入れて指導していきたい。

○書き言葉と話し言葉の違いを理解する。

●学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う。

●言葉には、相手とのつながりをつくるはたらきがあることを捉える。

算 数

○成果があった点 ●課題がある点

数と計算

計算ドリルやワークを使った反復練習の成果として、基礎的な計算や数に関係する知識は定着しているが、それを場合に合わせて活用することは難しい。自分の持っている知識に関係する言葉が出てきたら、よく考えず解答してしまう傾向があるので、じっくり問題を読み、その上で自分の持っている知識をどう使っていくことができるか考える姿勢を、日常の授業やテストから育てていくことが必要である。

- 整数・小数・分数の四則計算ができる。
- 数に関係する基本的な用語について知っている。
- 情報を場合に合わせて選び、活用する力。
- 問題を繰り返し読み、粘り強く向き合う姿勢。

図形

図形に関する用語や特徴の学習の成果として、基本図形の内容はよく定着している。だが、その知識を活用してこれまで触れたことがないような問題を解くことは難しい。特に今回はプログラミングと図形の問題を融合した、普段の授業や教科書には出てこないような問題であったことから、落ち着いて読めばわかるような問題でも解答できない児童が多かった。文章量が多く、普段触れないような問題場面でも、自分の持つ知識を駆使して何とか正答を導き出そうとする姿勢を育てていくことが課題である。

- 三角形や平行四辺形などの基本図形の定義や性質の理解。
- 自分が身につけた知識を問題に合わせて正しく使う。
- 問題文をよく読み、粘り強く解答を導き出そうとする。

変化と関係

「割合」の場面での立式の際に「かけ算やわり算を使うこと」や「もとにする量とくらべる量」をどのように取り扱うかについては大方の児童が理解できていた。

今回の学力テストで唯一正答者が「0」であった問題は、「難易度が高い問題」というよりは、文章をよく読まないと思い込みで答えやすい「ひっかけやすい問題」ということができる。県や全国の平均正答率も低く、この問題を正確に解くためには「最後まで集中して問題に取り組み続ける集中力」や「1つ1つの問題に書いてある内容を丁寧に注意深く読み、選択肢を選ぶ力」が必要である。

また、計算は簡単だが、だからこそ、なぜその答えになったのかを順序だてて説明できる言葉の力が必要だと考える。

- 「割合」を求めるためにどんな式を立てたら答えを求められるかわかる。
- 「比例」の関係を使って表に当てはまる数値を求めることができる。
- 問題の文章をよく読み、書いてある内容を正確に理解することができる。
- 「比例」の関係を使って求めた数字を式や言葉で表現し順序だてて説明することができる。

データの活用

社会科や理科など他教科の学習と関連づけた指導の成果として、表やグラフを読み取る時の基本的な知識は身につけている。(例えば、表題を見れば何について書かれているグラフかわかるなど)

ただ、学習した「型」の中にある問題であれば難なく解くことができても、「1人2つずつ好きな遊びを選ぶ(複数回答)」の表や、「割合の大きい順に並んでいない円グラフ」など、少し変化があると戸惑ったり読み間違いをしたりして誤答につながっている。

- 表やグラフを見て、何についてかかれているグラフかわかる。
- 自分の知りたい情報に合わせてグラフを選択する。
- 身につけた知識を問題に合わせて臨機応変に正しく使う。

理 科

○成果があった点 ●課題がある点

エネルギー

基本的な知識はほぼ習得できているが、その知識を実際の場面に当てはめたり、応用したりする力はまだ足りない。生活する上で知っている事象がどんな原理でそうなっているのか疑問に思ったり、習った知識を応用したりという意欲に乏しいのが現実である。問題の本質を見抜き、その原因を予測する。さらに予測した事象の確認をするための方法を考え、適した実験を選ぶ。さらにその結果を考察して、予測が正しかったのか間違っていたのかを検証する。このような一連の科学的思考を育成していくことが急務であり、特にエネルギー分野ではそのことが顕著である。

○光は直進することを理解している。

○光を重ねれば温度は高くなり、より明るくなる。

●光源とスリットと壁の位置関係を把握することができる。

●問題の本質を見抜き、適した実験、予想される結果を考えることができる。

粒子

実験の機会が多いため、器具の正式名称はうろ覚えでも、基本的な器具の使い方はよく理解している。しかしこの分野でも、実験の結果から正しい考察を導き出すことができている。身近な問題でありながら、疑問に思ったり、「不思議」に結びついたりすることができないでいる。身の回りの「不思議」を見つけ解き明かしたいという意欲を持たせることが理科好きを増やす近道である。ここが本校の一番の課題であり、力をつけていかなければいけない点である。

○メスシリンダーの使い方を理解している。

○砂糖などを混ぜた水は凍るのに時間がかかるし、水より重くなる。

●自ら課題を持ち探求しようという意欲を持つことができる。

生命

自然に触れ合う機会や実物を観察できる機会が多い本校の児童らしく、正答率は高くなっている。しかし、調べたいことと、表・資料を照らし合わせる能力は低い。やはりここでも科学的思考力の低さを露呈している。

○観察の記録の仕方、見方を理解している。

○昆虫の育ちや体の仕組みを理解している。

●マトリックス図の使い方、見方を理解することができる。

地球

晴れの日や曇りの日の気温の違いなど、日常体験していることは容易に理解できるが、そこから学習が発展していくことはまずない。自然現象から疑問や「不思議」を見つけ調べていく学習が不足していること、論理的思考を促す授業も少ないことが課題としてあげられる。

○冬でも晴れの日と曇りの日の気温の違いがあることを理解している。

●自然現象から課題を見つけることができる。

学校・家での様子

本校の6年生児童は、「毎日同じぐらいの時刻に寝ている」「毎日同じぐらいの時刻に起きている」と回答した児童の割合や、携帯電話やスマートフォン、コンピューターの使い方について家の人との約束を守っていたり適正な使用時間だったりするなどの割合が全国、県平均よりも高く、望ましい生活習慣が定着していることがわかる。

また、「いじめはどんなことがあってもいけないことだ」「人の役に立つ人間になりたいと思う」と回答した児童の割合が9割前後と全国、県平均より高く、児童の規範意識の高さがうかがえる。

しかし、「自分にはよいところがある」「将来の夢や目標を持っている」「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしている」と回答した児童の割合は50%前後で、ほぼ全国・県平均と同程度となっている。「学校に行くのは楽しい」や「自分と違う意見について考えるのは楽しい」、「友だちと協力するのは楽しい」は、全国・県平均よりやや低くなっている。「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思うか」や「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できるか」の割合は全国・県平均より高くなっているが、学校を安心して楽しく過ごせる場所にし、自尊感情を育むためにさらに取組を進める必要がある。

学習に対しては、国語や算数の勉強が好きで、国語や理科の勉強が大切だと考えている児童が多く、国語、算数、理科共に「授業の内容がよく分かる」と全国・県平均よりも多い割合の児童が感じている。また「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）」でも全国平均を超える割合の児童ができており、意欲的に学習に取り組んでいる。

「5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日使った」と答えた児童が、全国平均よりも2倍以上多く、「学校で、学級の友だちと意見を交換する場面で、PC・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日使っている」と答えた児童も全国平均よりも3倍近く多い。これらの結果から、ICTを活用した学習の取組がかなり進んでいると考えられる。

また、学校以外の読書時間は低くなっているが、家庭にある蔵書数は全国・県平均より多い。「読書が好き」という割合は、「当てはまる」「どちらかといえば、あてはまる」で9割を超えるほどになっているので、読書環境をうまく活用し、さらに読書時間を増やすことが大切だと考える。

「自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがある」や「地域の大人に勉強やスポーツを教えてもらったり、遊んでもらったりすることがある（習い事は除く）」、「今住んでいる地域の行事に参加している」はいずれも高い割合で、加古の地域の教育力をうまく活用できていると考える。

以上のように、6年生の児童は規則正しく生活し、意欲的に学校生活に取り組んでいる。また、友だちと話し合ったり協力し合ったりして物事に取り組むこともできている。今回の結果を教職員で共通理解を行い、児童の指導に活用していきたい。